

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月29日

上場会社名 タカラバイオ株式会社
 コード番号 4974 URL <http://www.takara-bio.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 仲尾 功一

(氏名) 木村 睦

TEL 077-543-7212

上場取引所 東

(百万円未満切捨)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	13,563	1.1	284	386.7	403	624.9	277	—
21年3月期第3四半期	13,419	—	58	—	55	—	△284	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	984.57	983.16
21年3月期第3四半期	△1,010.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	42,395	37,466	88.4	132,794.01
21年3月期	43,117	37,149	86.2	131,732.45

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 37,466百万円 21年3月期 37,149百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,920	0.0	465	9.0	700	99.1	500	△22.2	1,772.18

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	282,139株	21年3月期	282,009株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	—株	21年3月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	282,046株	21年3月期第3四半期	281,955株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。今後発生する状況の変化等によっては、実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。なお、平成21年11月5日に公表した通期業績予想のうち、売上高を修正しております。また、新株予約権の行使により発行済株式数が60株増加いたしましたので、1株当たり当期純利益の予想を修正しております。

(参考)個別業績予想

平成22年3月期の個別業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	13,718	3.6	31	△ 84.2	561	4.3	528	△ 35.2	1,872	66

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。今後発生する状況の変化等によっては、実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。なお、平成21年11月5日に公表した通期業績予想のうち、売上高を修正しております。また、新株予約権の行使により発行済株式数が60株増加いたしましたので、1株当たり当期純利益の予想を修正しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の増加により持ち直してきた景気が急激な為替変動の影響を受けたことに加え、設備投資や個人消費が依然として弱く、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは長年培われたバイオテクノロジーを活用し、遺伝子工学研究分野、遺伝子医療分野、医食品バイオ分野の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

その結果、売上高は、主として遺伝子工学研究分野における理化学機器の増加により、前年同期比143百万円(1.1%)増加の13,563百万円となりました。売上原価は、売上高の増加に伴う増加等により、前年同期比84百万円(1.3%)増加の6,387百万円となりましたので、売上総利益は前年同期比58百万円(0.8%)増加の7,176百万円となりました。販売費及び一般管理費は、研究開発費が増加したものの販売促進費や管理費の減少等により前年同期比167百万円(2.4%)減少の6,891百万円となりましたので、営業利益は前年同期比226百万円(386.7%)増加の284百万円となりました。

営業外損益では、金利低下による受取利息の減少等により営業外収益が前年同期比76百万円(37.6%)減少いたしました。為替差損の減少等により営業外費用が前年同期比198百万円(96.1%)減少いたしましたので、経常利益は前年同期比347百万円(624.9%)増加の403百万円を計上することとなりました。

特別損益では、特別損失で固定資産除売却損が増加いたしました。前期に計上した係争和解費用128百万円およびたな卸資産評価損64百万円がなくなりましたので収支が改善いたしました。また、法人税、住民税及び事業税の減少等により、四半期純利益は277百万円(前年同期は四半期純損失284百万円)を計上することとなりました。

事業の種類別セグメントの状況および所在地別セグメントの状況は次のとおりであります。

① 事業の種類別セグメントの状況

[遺伝子工学研究分野]

バイオテクノロジー関連分野の研究開発活動がますます広がりを見せるなか、当社グループは、こうした研究開発活動を支援する製品・商品やサービスを中心に展開する当分野をコアビジネスと位置づけております。

当分野の品目別売上高の状況は、主力製品である研究用試薬の売上高は、円高の影響により前年同期比で減少いたしました。理化学機器の売上高は、日本の官公庁向け需要により前年同期比で大幅に増加いたしました。また研究受託サービス等の売上高につきましても、前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、当分野の外部顧客に対する売上高は11,672百万円(前年同期比98.7%)と減収となり、売上総利益も6,744百万円(前年同期比98.9%)と減少いたしました。販売費及び一般管理費は、販売促進費、運送費等の減少により3,989百万円(前年同期比92.5%)と減少いたしましたので、営業利益は2,755百万円(前年同期比109.9%)と前年同期を上回りました。

[遺伝子医療分野]

当分野においては、最近の急速な細胞生物学の進歩によって基礎研究と臨床応用の距離がますます短くなり、再生医療の実用化が急速に進むなかで、遺伝子治療・細胞医療の早期商業化に注力しております。当社グループは、高効率遺伝子導入技術レトロネクチン法、高効率リンパ球増殖技術であるレトロネクチン拡大培養法およびRNA分解酵素等の自社技術を利用したアジアにおけるがんとエイズの遺伝子治療の臨床開発を進めております。

当期は、がん細胞免疫療法に関する技術支援サービスの売上高が前年同期比で増加いたしましたので、当分野の外部顧客に対する売上高は258百万円(前年同期比237.1%)と大幅な増収となり、売上総利益も117百万円(前年同期比237.1%)と増加いたしました。販売費及び一般管理費は研究開発費を中心に1,085百万円(前年同期比122.2%)と増加いたしましたので、営業損失は967百万円(前年同期営業損失838百万円)となりました。

[医食品バイオ分野]

当分野では、食から医という「医食同源」のコンセプトに基づき、当社グループ独自の先端バイオテクノロジーを駆使して日本人が古来常食してきた食物の科学的根拠を明確にした機能性食品素材の開発、製造および販売を行っており、ガゴメ昆布フコイダン関連製品、寒天オリゴ糖関連製品、明日葉カルコン関連製品およびキノコ関連製品等を中心に事業を展開しております。

当期は、健康志向食品、キノコ関連製品の売上高がともに前年同期比で増加いたしましたので、当分野の外部顧客に対する売上高は1,632百万円(前年同期比109.6%)と増収となりました。売上高に対する原価率の改善により、売上総利益は313百万円(前年同期比127.6%)と増加し、販売費及び一般管理費は運送費、販売促進費、倉庫料等が増加して739百万円(前年同期比111.0%)となりましたので、営業損失は425百万円(前年同期営業損失419百万円)となりました。

② 所在地別セグメントの状況

[日本]

国内は、当社における売上高が増加し、外部顧客に対する売上高は前年同期比106.3%の8,434百万円、セグメント間売上高は前年同期比97.4%の1,641百万円となり、売上高合計は前年同期比104.7%の10,075百万円、営業利益は前年同期比107.5%の943百万円となりました。

[アジア]

アジアは、宝生物工程（大連）有限公司、宝日医生物技術（北京）有限公司の売上高が好調に推移し、外部顧客に対する売上高は前年同期比116.0%の1,516百万円、セグメント間売上高は前年同期比111.6%の1,003百万円となり、売上高合計は前年同期比114.2%の2,519百万円、営業利益は前年同期比125.0%の585百万円となりました。

[北米]

北米は、Clontech Laboratories, Inc. の売上高が円高の影響もあって減少し、外部顧客に対する売上高は前年同期比90.6%の2,530百万円、セグメント間売上高は前年同期比86.2%の892百万円となり、売上高合計は前年同期比89.4%の3,423百万円、営業損失は315百万円（前年同期営業損失196百万円）となりました。

[欧州]

欧州は、Takara Bio Europe S. A. S. の売上高が円高の影響もあって減少し、外部顧客に対する売上高は前年同期比78.2%の1,082百万円、セグメント間売上高は実績がありませんでしたので、売上高合計は前年同期比78.2%の1,082百万円、営業利益は前年同期比91.2%の141百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（財政状態に関する分析）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は42,395百万円となり、前連結会計年度末に比べ721百万円減少いたしました。この減少の主な内容は、現金及び預金の増加3,215百万円、有価証券の減少2,888百万円、受取手形及び売掛金の減少423百万円、有形および無形固定資産の減少376百万円、投資その他の資産の減少164百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は4,929百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,038百万円減少いたしました。この減少の主な内容は、支払手形及び買掛金の減少544百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、37,466百万円となり、前連結会計年度末に比べ316百万円増加いたしました。この増加の内容は、新株予約権の行使による資本金および資本剰余金の増加26百万円、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加277百万円、評価・換算差額等の増加12百万円であります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少、減価償却費（その他の償却額含む）等がありましたが、仕入債務の減少、定期預金の預入による支出、固定資産等の取得による支出等により、前連結会計年度末残高に対して4,748百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末には6,967百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少546百万円、法人税等の支払額131百万円等がありましたが、税金等調整前四半期純利益の計上339百万円、減価償却費（その他の償却額含む）1,291百万円、売上債権の減少435百万円等により1,377百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入2,684百万円、有価証券の売却及び償還による収入479百万円がありましたが、定期預金の預入による支出8,203百万円、有形・無形固定資産およびその他償却資産の取得による支出1,004百万円等により6,080百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、株式の発行による収入25百万円がありましたが、長期借入金の返済による支出13百万円、リース債務の返済による支出26百万円により15百万円の支出となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

売上高は第3四半期連結累計期間で13,563百万円となり、前回予想（平成21年11月5日公表、以下同じ。）の通期売上高18,700百万円に対する進捗率は72.5%となりました。当社グループにとっての最需要期である第4四半期について、為替相場の動向等も含め現下の状況を精査した結果、理化学機器の売上高が増加する見込みとなりましたので、通期の売上高は18,920百万円と前回予想を220百万円（1.2%）上回る見込みであります。

利益面では、売上総利益が9,994百万円と前回予想を6百万円（0.1%）上回るものの、販売費及び一般管理費は9,529百万円と前回予想比6百万円（0.1%）の増加となる見込みであります。

この結果、営業利益は前回予想どおりの465百万円となる見込みとなりました。また、営業外損益は、ほぼ前回予想どおりとなる見込みとなりましたので、経常利益は前回予想どおり700百万円となる見込みであります。

特別損益および法人税等につきましても、前回予想から大きな変更が見込まれないことから、当期純利益も前回予想どおり500百万円となる見込みであります。

また、個別業績につきましても、連結と同様に理化学機器の売上高の増加が見込まれますが、営業利益・経常利益・当期純利益につきましては、前回予想どおりとなる見込みであります。

以上のことから、平成22年3月期の通期業績予想につき、売上高を修正するものであります。

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
前回予想	18,700	△1.1	465	9.0	700	99.1	500	△22.2	1,772	56
修正予想	18,920	0.0	465	9.0	700	99.1	500	△22.2	1,772	18
増減額・率	220	1.2	—	—	—	—	—	—	△0	38

(注) 発行済株式総数が60株増加いたしましたので、1株当たり当期純利益の予想を修正しております。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,147	8,932
受取手形及び売掛金	4,390	4,814
有価証券	4,666	7,555
商品及び製品	2,060	2,255
仕掛品	377	274
原材料及び貯蔵品	847	757
その他	1,032	1,133
貸倒引当金	△27	△46
流動資産合計	25,496	25,676
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,061	8,149
減価償却累計額	△4,189	△4,236
建物及び構築物（純額）	3,872	3,913
機械装置及び運搬具	6,930	6,936
減価償却累計額	△5,095	△4,993
機械装置及び運搬具（純額）	1,834	1,943
工具、器具及び備品	4,689	4,751
減価償却累計額	△3,623	△3,601
工具、器具及び備品（純額）	1,065	1,150
土地	4,615	4,613
リース資産	100	100
減価償却累計額	△23	△7
リース資産（純額）	76	92
建設仮勘定	120	40
有形固定資産合計	11,585	11,754
無形固定資産		
のれん	1,830	1,950
その他	839	926
無形固定資産合計	2,669	2,877
投資その他の資産	2,644	2,809
固定資産合計	16,899	17,441
資産合計	42,395	43,117

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	888	1,432
短期借入金	45	45
未払法人税等	89	146
引当金	178	266
その他	1,656	1,899
流動負債合計	2,857	3,789
固定負債		
長期借入金	441	455
退職給付引当金	1,075	993
その他	554	728
固定負債合計	2,071	2,178
負債合計	4,929	5,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,053	9,040
資本剰余金	26,980	26,967
利益剰余金	2,642	2,364
株主資本合計	38,676	38,373
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	130	109
為替換算調整勘定	△1,340	△1,332
評価・換算差額等合計	△1,210	△1,223
純資産合計	37,466	37,149
負債純資産合計	42,395	43,117

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	13,419	13,563
売上原価	6,302	6,387
売上総利益	7,117	7,176
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	1,446	1,396
研究開発費	2,169	2,252
引当金繰入額	120	132
その他	3,322	3,110
販売費及び一般管理費合計	7,059	6,891
営業利益	58	284
営業外収益		
受取利息	122	59
為替差益	—	46
運送費相手先負担額	45	—
その他	35	20
営業外収益合計	203	126
営業外費用		
支払利息	8	7
為替差損	168	—
持分法による投資損失	19	—
その他	8	0
営業外費用合計	206	7
経常利益	55	403
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	7	—
貸倒引当金戻入額	12	3
その他	0	0
特別利益合計	21	4
特別損失		
固定資産除売却損	47	62
たな卸資産評価損	64	—
係争和解費用	128	—
その他	—	6
特別損失合計	240	68
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△163	339
法人税、住民税及び事業税	303	148
法人税等還付税額	—	△71
過年度法人税等	—	△63
法人税等調整額	△185	48
法人税等合計	117	62
少数株主利益	3	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△284	277

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	4,492	4,872
売上原価	1,993	2,276
売上総利益	2,499	2,595
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	455	436
研究開発費	738	750
引当金繰入額	74	72
その他	1,056	1,043
販売費及び一般管理費合計	2,325	2,302
営業利益	173	293
営業外収益		
受取利息	46	14
運送費相手先負担額	15	—
その他	4	3
営業外収益合計	66	18
営業外費用		
支払利息	2	2
為替差損	87	23
その他	0	0
営業外費用合計	91	25
経常利益	148	286
特別利益		
固定資産売却益	—	0
貸倒引当金戻入額	20	2
その他	2	—
特別利益合計	23	2
特別損失		
前期損益修正損	—	6
固定資産除売却損	18	21
係争和解費用	3	—
特別損失合計	21	27
税金等調整前四半期純利益	149	261
法人税、住民税及び事業税	150	△12
法人税等還付税額	—	△71
法人税等調整額	△43	106
法人税等合計	107	22
少数株主利益	1	—
四半期純利益	41	238

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△163	339
減価償却費	1,004	928
その他の償却額	432	363
のれん償却額	107	108
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△37	△20
その他の引当金の増減額(△は減少)	△19	△7
受取利息	△122	△59
支払利息	8	7
持分法による投資損益(△は益)	19	—
固定資産除売却損益(△は益)	46	61
売上債権の増減額(△は増加)	1,045	435
たな卸資産の増減額(△は増加)	△472	△10
仕入債務の増減額(△は減少)	△9	△546
その他	△246	△159
小計	1,593	1,441
利息及び配当金の受取額	131	72
利息の支払額	△5	△4
法人税等の支払額	△410	△131
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,308	1,377
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△472	△8,203
定期預金の払戻による収入	397	2,684
有価証券の取得による支出	△372	—
有価証券の売却による収入	—	479
有形及び無形固定資産の取得による支出	△652	△811
その他償却資産の取得による支出	△208	△192
関係会社株式の取得による支出	△23	—
関係会社株式の売却による収入	75	—
その他	16	△36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,240	△6,080
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△13	△13
株式の発行による収入	35	25
リース債務の返済による支出	△19	△26
連結子会社の自己株式取得による支出	△151	—
セール・アンド・リースバック取引による収入	18	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△130	△15
現金及び現金同等物に係る換算差額	△226	△30
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△289	△4,748
現金及び現金同等物の期首残高	15,469	11,715
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,179	6,967

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)					
	遺伝子工学研究 (百万円)	遺伝子医療 (百万円)	医食品パイ オ(百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	11,821	108	1,489	13,419	—	13,419
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	0	0	(0)	—
計	11,821	108	1,490	13,420	(0)	13,419
営業利益又は営業損失(△)	2,506	△838	△419	1,248	(1,189)	58

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)					
	遺伝子工学研究 (百万円)	遺伝子医療 (百万円)	医食品パイ オ(百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	11,672	258	1,632	13,563	—	13,563
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	1	—	0	1	(1)	—
計	11,673	258	1,633	13,565	(1)	13,563
営業利益又は営業損失(△)	2,755	△967	△425	1,361	(1,077)	284

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品・サービスの種類・特性などを考慮して、遺伝子工学研究、遺伝子医療、医食品バイオの3事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
遺伝子工学研究	試薬（遺伝子工学用、蛋白質工学用、細胞工学用、糖生物工学用）、理化学機器、研究受託サービス、遺伝子工学研究関連特許実施許諾対価料
遺伝子医療	遺伝子導入関連製品、遺伝子治療用材料、研究受託サービス、遺伝子医療関連特許実施許諾対価料
医食品バイオ	キノコ（ハタケシメジ、ホンシメジ）、バナシメジ特許実施許諾対価料、バイオ医食品（ガゴメ昆布フコイダン関連製品、寒天オリゴ糖関連製品、明日葉カルコン関連製品）

3. 会計処理の方法の変更

前第3四半期連結累計期間

（棚卸資産の評価に関する会計基準）

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2. (1)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で7百万円減少し、医食品バイオ事業で26百万円増加しております。

（連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い）

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2. (2)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で95百万円減少しております。

4. 追加情報

当第3四半期連結累計期間

（「運送費相手先負担額」の計上方法の変更）

従来、顧客から受領した運送費は営業外収益の「運送費相手先負担額」として計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、運送業者へ支払った運送費と当該金額を相殺し、純額で、販売費及び一般管理費（運送費）として計上しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益が遺伝子工学研究事業で33百万円増加しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)						
	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	7,934	1,306	2,794	1,384	13,419	—	13,419
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,684	899	1,035	—	3,619	(3,619)	—
計	9,618	2,205	3,830	1,384	17,039	(3,619)	13,419
営業利益又は 営業損失(△)	878	468	△196	155	1,304	(1,246)	58

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)						
	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	8,434	1,516	2,530	1,082	13,563	—	13,563
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,641	1,003	892	—	3,538	(3,538)	—
計	10,075	2,519	3,423	1,082	17,101	(3,538)	13,563
営業利益又は 営業損失(△)	943	585	△315	141	1,355	(1,070)	284

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア・・・中国、韓国

北米・・・米国

欧州・・・フランス

3. 会計処理の方法の変更

前第3四半期連結累計期間

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2.(1)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が日本で19百万円増加しております。

(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2.(2)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号平成18年5月17日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益が北米で95百万円減少しております。

4. 追加情報

当第3四半期連結累計期間

(「運送費相手先負担額」の計上方法の変更)

従来、顧客から受領した運送費は営業外収益の「運送費相手先負担額」として計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、運送業者へ支払った運送費と当該金額を相殺し、純額で、販売費及び一般管理費(運送費)として計上しております。これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益が欧州で33百万円増加しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）の海外売上高は、次のとおりであります。

	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
I 海外売上高	1,572	2,955	1,407	16	5,950
II 連結売上高					13,419
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	11.7	22.0	10.5	0.1	44.3

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）の海外売上高は、次のとおりであります。

	アジア (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
I 海外売上高	1,755	2,432	1,093	11	5,293
II 連結売上高					13,563
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	12.9	17.9	8.1	0.1	39.0

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア・・・・中国、韓国、台湾他

北米・・・・米国、カナダ

欧州・・・・フランス、ドイツ、イギリス他

その他・・・・オセアニア、アフリカ

3. 海外売上高は、連結財務諸表提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	3,453	72.6
研究受託サービス	1,107	98.0
その他	38	137.9
計	4,599	77.7
遺伝子医療分野	114	292.2
医食品バイオ分野	1,195	109.5
合計	5,910	83.9

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

当第3四半期連結累計期間の仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	849	142.8
理化学機器	1,322	92.9
研究受託サービス	17	80.7
その他	350	126.1
計	2,540	109.6
遺伝子医療分野	107	241.3
医食品バイオ分野	220	123.2
合計	2,868	112.9

- (注) 1. 金額は、仕入価格によっております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

遺伝子工学研究分野において研究受託サービスを行っていることから、一部受注生産を行っておりますが、ほとんどの場合生産に要する期間が短いこと、かつ、受注残高が僅少であることから記載を省略しております。

(4) 販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前年同四半期比（%）
遺伝子工学研究分野		
研究用試薬	7,894	91.5
理化学機器	2,088	136.5
研究受託サービス	1,056	97.3
その他	632	110.4
計	11,672	98.7
遺伝子医療分野	258	237.1
医食品バイオ分野	1,632	109.6
合計	13,563	101.1

- (注) 1. セグメント間の内部売上高は除いて記載しております。
2. 金額には、消費税等は含まれておりません。